

任意の状態ベクトル  $|\psi\rangle$  に対して以下の不等式が成り立つ.

$$E(\psi) = \frac{\langle \psi | \hat{H} | \psi \rangle}{\langle \psi | \psi \rangle} \geq E_0$$

*Proof.* 任意の状態ベクトル  $|\psi\rangle$  を

$$|\psi\rangle = \sum_k c_k |k\rangle$$

と展開する. 左から  $\langle k'|$  を作用させると

$$\langle k' | \psi \rangle = \sum_k c_k \langle k' | k \rangle = \sum_k c_k \delta_{k',k} = c_{k'}$$

を得る. これは任意の  $k$  に対して成り立つので**式 (??)** は以下のように変形できる.

$$\begin{aligned} |\psi\rangle &= \sum_k \langle k | \psi \rangle |k\rangle \\ &= \sum_k |k\rangle \langle k | \psi \rangle \end{aligned}$$

これを用いて**式 (??)** の分母を以下のように変形する.

$$\begin{aligned} \langle \psi | \hat{H} | \psi \rangle &= \langle \psi | \hat{H} \sum_k |k\rangle \langle k | \psi \rangle \\ &= \sum_k \langle \psi | \hat{H} | k \rangle \langle k | \psi \rangle \\ &= \sum_k E_k \langle \psi | k \rangle \langle k | \psi \rangle \\ &= \sum_k E_k |\langle k | \psi \rangle|^2 \end{aligned}$$

また,

$$\langle \psi | \psi \rangle = \sum_k |\langle k | \psi \rangle|^2$$

であるので,

$$E(\psi) = \frac{\langle \psi | \hat{H} | \psi \rangle}{\langle \psi | \psi \rangle} = \frac{\sum_k E_k |\langle k | \psi \rangle|^2}{\sum_k |\langle k | \psi \rangle|^2} \geq \frac{\sum_k E_0 |\langle k | \psi \rangle|^2}{\sum_k |\langle k | \psi \rangle|^2} = E_0$$

が示される. □

**式 (??)** よりあらゆる状態ベクトル  $|\psi\rangle$  のエネルギーは基底エネルギー  $E_0$  以上である. 変分法は,

1. **試行関数**  $|\psi\rangle$  をたくさん用意し,  
2. それぞれのエネルギー  $E(\psi)$  を計算し,  
3. その中で最小の  $E(\psi)$  を  $E_0$  の近似解とする

近似法である.

### 例 0.1

ポテンシャル  $V(x) = \lambda x^4$  中に粒子がある系を考える. この系の Hamiltonian は

$$\hat{H} = -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} + \lambda x^4$$

である. 予想される基底状態が満たすべき条件は

- $x = 0$  で存在確率が最大
- $|x| \rightarrow \infty$  で存在確率が 0
- 節がない<sup>a</sup>

である. この条件と変分法を用いて, エネルギーの近似値を求めよ.

<sup>a</sup>節があると微係数が大きい点が存在し, これは運動エネルギーを大きくしてしまう.

試行関数として  $\psi(x, \alpha) = e^{-\frac{\alpha x^2}{2}}$ ,  $\alpha > 0$  を考える. **式 (??)** の右辺を計算すると,

$$\begin{aligned} E(\alpha) &= \frac{\int \psi^* \hat{H} \psi \, dx}{\int \psi^* \psi \, dx} \\ &= \frac{\hbar^2 \alpha}{4m} + \frac{3\lambda}{4\alpha^2} \end{aligned}$$

を得る. 第 1 項は運動エネルギーを, 第 2 項はポテンシャルエネルギーを, それぞれ表している<sup>a</sup>. **式 (??)** の最小値が基底エネルギー  $E_0$  の近似解である. よって,  $\frac{d}{d\alpha} E(\alpha_0) = 0$  となる  $\alpha_0$  を**式 (??)** に代入することで近似解,

$$E(\alpha_0) = \frac{3}{8} \left( \frac{6\hbar^4 \lambda}{m^2} \right)^{1/3}$$

を得る.

<sup>a</sup>ポテンシャルエネルギーの項は  $\alpha$  が大きくなるほど小さくなる. これは, 波動関数が狭まり  $x = 0$  での存在確率が大きくなるためである. 一方, 運動エネルギーの項は  $\alpha$  が大きくなるほど大きくなる. これは, 不確定性関係  $\Delta x \Delta p \geq \frac{\hbar}{2}$  より, 運動量のぼらつきが大きくなるためである.